

三重の祭り(12月〜2月)



ピーヒャラ、ピーヒャラ、ドンドコドンドン。笛や太鼓が奏でる独特の音色、大勢の人々の弾んだ声、ずらりと並ぶ屋台や幻想的な灯り、寺社の境内で繰り広げられる伝統の技…。

「祭り」には、神仏への感謝、祖先や死者への鎮魂、大地の恵みへの祈願など、さまざまな祈りが込められています。三重県内でも、それぞれの地域の歴史や風土と結び付いた魅力ある祭りが受け継がれ、私たちの胸を熱くしてくれます。

今回は、12月から2月までの間に行われる三重の祭りをご紹介します。

*12月から2月にかけて県内で行われる祭りは数多く存在します。今回ご紹介するのは一部です。

*各祭りの内容や開催日時、開催場所、見学方法などには違いがあり、状況に応じて休止・中止する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文：中村 真由美・中村 元美・堀口 裕世

中川 絵美子

撮影……梅川 紀彦・松原 豊・尾之内 孝昭

中村 元美

ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

発祥の地で年に二度奉納される、圧巻の伝統芸能

伊勢大神楽

毎年12月24日の午後、増田神社では年に一度の祭礼が行われ、境内は熱気に包まれます。伊勢大神楽の総舞が奉納されるのです。

伊勢大神楽は、伊勢神宮に参拝できない人々のために各地を回り、神楽を奉納する祭事。舞(獅子舞)と曲(放下芸)で構成され、獅子舞には悪魔を祓(はら)って幸福を与えるという意味が込められ、放下芸は人々を楽しませるための曲芸を表しています。国の重要無形民俗文化財にも



「綾採の曲」(右 山本 勘太夫さん)※



「水の曲」(皿の曲)※



「魁曲」※

〔桑名市太夫〕

指定されている伝統の芸能を披露するのは、「一般社団法人伊勢大神楽講社」の皆さん。現在、山本勘太夫社中・山本源太夫社中・森本忠太夫社中・加藤菊太夫社中・石川源太夫社中が存在し、この日のために、桑名に集結するのです。

総舞は、神楽開始の儀礼舞という意味を持つ「鈴の舞」に始まり、神をお招きし一年のお祓いをする舞「神来舞」、大神に捧げる神衣を織る糸箆の動きを表した「綾採の曲」、農事に関する災害防止を祈

願する「水の曲」などが披露されます。

技が決まるたびに、歓声が上がります。最後を飾るのは、花魁姿の獅子が肩の上に乗る「魁曲」です。艶やかさに魅了される一方で、修練の積み重ねを感じます。

「桑名は伊勢大神楽発祥の地ですが、意外と知られていないのが残念です」と話すのは、山本勘太夫さん。平成26(2014)年に9代目を襲名し、自らの修練の傍ら、後進の育成にも尽力する日々を過ごします。郷土の誇りである伝統芸能を「若い人たちにも知ってもらいたい」と語ってくれました。

本年の祭礼の日まであとわずか。本拠地桑名で、圧巻の舞と曲を堪能してはいかがでしょうかでしょう。

お問い合わせ

「一般社団法人 伊勢大神楽講社」

(代表) 山本勘太夫社中

TEL 0594-17312788

*伊勢大神楽の表記に関しては、伊勢太神楽、伊勢代神楽などがあり、「伊勢太神楽」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。文中では、伊勢大神楽で統一しました。

旧正月の法要を守る人々の想いが結集

正月堂の修正会

【伊賀市島ヶ原】



凍てつく寒さが続く旧正月のころ、観
音寺では古式ゆかしい修正会 県指定
無形民俗文化財が行われます。修正会

は「元頭村」「西方」「中矢方」「蜜ノ木講」
「白黄会」「聖風講」「子供節句之頭」の7
組があります。各講の人々が手にして

2月9日、元頭村では古式に則った大餅搗ぎが行われる。※ 撮影：山菅 善文

とは、五穀豊穡
や天下泰平など
を祈願して、お
正月に行う法会
（法要）のこと。そ
のため、同寺は古
くから「正月堂」
と呼び親しまれ
ています。

現在、修正会
が行われるのは
2月11日と12日。
11日の大餅会式
では、講ごとに
行列を組んで正
月堂まで練り歩
きます。講は、修
正会を行うため
に結成された住
民組織で、現在

いるのは、鬼の頭の形をしたユニークな
飾り物や、餅をサクラの枝に付けた成花
などに加えて、直径約30センチメートル
もある円柱形の餅5つ。「エトオーツ」「エ
トオーツ」の掛け声とともに本堂に練り
込んでいく姿は勇壮そのものです。12
日には、本堂で結願法要が行われます。
正月堂の住職はじめ数人の僧侶が、体を
打ち付ける五体投地に続いて、本尊が安
置された厨子の周りを牛玉杖で力強く
打ちつけます。これは「眠り観音」と呼ば
れる本尊の木造十二面観音立像（国重要
文化財）を目覚めさせるためだといわれ
ています。そして、
法螺貝や太鼓や
鉦などを乱打す
る中、水天と火天
の舞が繰り広げ
られます。大音
響の中で行われ
る荒行は、達陀行
法といわれます。
豪快で神秘的



山菅 善文さん



池田 周硯さん

な法要が終了した13日には鏡開きが行
われ、供えた大餅を切り分けて関係者に
配ります。皆で一緒に供物やお酒など
をいただく儀式（直会）を終えると、やが
て島ヶ原に春が訪れます。

「私たちにとっては、修正会は前年の
12月から始まっています」と教えてくれ
るのは、池田周硯さんです。池田さんは、
「中矢方」で本年の頭屋（当番）を務めま
した。話を伺うと、役割分担を決める事
始めに始まり、山の神に参拝した後にサ
クラやマツなどの道具となる枝を伐り
出し、鬼頭や成花などを新たに手作りす
る傍ら、2月9日には皆で大餅搗ぎを行

うなど、想像以上に多くの儀式が続くこ
とがわかりました。そのため、かつて存
在した講のいくつかは解散し、「中矢方」
も活動を休止していた時期があったと
いいます。それでも再び活動を開始し
た池田さん。その理由を聞くと、「祖父
も父も続けてきた伝統を絶やしたらイ
カンから」と、力強い答えが返ってきま
した。池田さんの想いは、正月堂の堂番
（本堂の管理人）を務める山菅善文さん
はじめ、島ヶ原の人々にとっても共通で、
近年は女性や子どもたちも講に参加。
1250年以上もの歴史を有する修正
会を守り続けているのです。



2月11日、松明を先頭に正月堂まで練り歩く ※
撮影：松永 秀基



本堂に並べられた大餅や鬼頭など ※
撮影：山菅 善文



達陀行法 ※
撮影：山菅 善文



観音寺楼門（国重要文化財）



観音寺本堂（国重要文化財）



頭屋に授けられた牛玉札

来たる
2月11日
と12日、
人々の想
いが結集
した正月
堂の修正会の迫力を、間近に感じてみて
はいかがでしょうか。
なお、本尊の開帳は33年に一度のみで
すが、来年度中に「東京国立博物館」展
示・公開される予定です。

お問い合わせ

観音寺 社務所
TEL 0595-5913080

七日間続く真宗最大の祭り

真宗高田派本山 専修寺 報恩講(お七夜)

〔津市二身田〕



国宝の御影堂に幕が張り巡らされ、華やぐ境内※

高田本山と親しまれる専修寺は、親鸞聖人の教えを受け継ぐ真宗高田派の本山寺院。大きな伽藍が立ち並ぶ境内の御廟には親鸞聖人のご遺骨があり、如来堂・御影堂などの国宝建造物をはじめ、たくさんさんの宝物や文化財を持つ名刹です。また、夏には境内に蓮が美しく咲き乱れる花の名所でもあります。毎年1月9日から16日まで、この専修寺で行われるのが真宗最大の法会「報恩講」。一般には「お七夜」として

て、一身田の新年の風物詩となっています。

お話を伺ったのは、参拝課主任で宝物館事務長の眞弓 俊光さんと参拝課で広報担当の千賀 光真さんのお二人。「報恩講は、親鸞聖人を偲ぶ法会です。聖人が亡くなられた1月16日(旧暦11月28日)に向けて、七昼夜にわたってお勤めが行われる、1年の諸法会の中で最も大切な法会で、日本中の各地から、たくさんの方が来てくださいます」と眞弓さん。千賀さんも「勤行のほかにも、講演やお説教、親鸞聖人の生涯の物語を描いた『御絵伝』が掲げられるなど、真宗に親しんでいただけるような催しがたくさんあります。広く衆生を救うのが真宗の教えですので、宗派や信教にかかわらず、皆さまに楽しんでいただきたいと思います」



千賀 光真さん



眞弓 俊光さん



幻想的な竹あかりの光※

ています」と、門は広く開かれていて話されます。

お七夜の期間だけは、境内に提灯がともされ特別な夜の風景が楽しめますが、

が境内に開かれます。「お浄土がこの地に出現したかのような、安らぎのある美しい光景です」と千賀さん。竹あかりと同時に演奏会が開かれる日もあります。ほかにも、新宝物館「燈炬殿」の宝物展示や普段は非公開のお庭「雲幽園」、茶室「安楽庵」の見学ができるなど、お七夜中は特別な催しがたくさん予定されています。



三重県史跡名勝「雲幽園」※

またこの期間は、専修寺内だけではなく、近隣のまちにとっても年に一度の大きなお祭り。寺内町一帯が露店やイベントなどで大いににぎわいます。一週間にわたるお七夜。お念仏や法話に親鸞聖人を感じたり、美しい光景に精神を開放したり、露店を巡ったり、イベントに参加したり、国宝や文化財に接したり、人それぞれの楽しみ方があります。

お問い合わせ

真宗高田派本山 専修寺 総合案内所
TEL 059-1232-7234



16日だけに行われる御参廟(大行列)※



きらびやかな御影堂の中での法会※



宝物館の「燈炬殿」※



御影堂(手前)と如来堂(奥)は
いずれも国宝



山門は専修寺伽藍の総門

冬の夜、火の粉とともに舞う勇壮な神事

東大淀の御頭神事

【伊勢市東大淀町】



火の粉が巻き上がる中で、御頭が火の中に飛び込み悪魔払いをする※

伊勢市の宮川下流沿岸部を中心とした地域では、1月から2月にかけて飢饉や悪疫を祓うための「御頭神事」が各地

で行われます。なかでも東大淀地区の御頭神事は、400年以上前から続く佐登奈加神社の神事で、住民の災厄を一身に背負った御頭が炎の中でそれらを焼き尽くす奇祭として、県の無形民俗文化財にも指定されています。来年の開催は2月7日。以前は旧暦1日1日に実施されていましたが、近年はその直前の土曜日に実施しています。かつては正月の行事として農漁業の事始めを兼ねていたそうです。子どもの頃は夏の祇園祭礼と冬の神事祭礼（御頭神事）は毎年ワクワクする行事でした」と語るのは神楽師の濱

口典彦さん。神楽師とは舞や演奏、悪魔祓いなど御頭に関係する儀式全般を担うメンバーのこと。昔は世襲制で、地区の長男しか入れないなどの制約がありました。が、時勢に合わせで変化し、現在の構成員は御頭を担ぐ舞子と演奏する笛方を合わせて13人となりました。御頭は神様であり、御頭に触れる神楽師は昔から厳しい浄めの儀式に挑んできました。神事の約1カ月前から家族らと寝食を別にし、祭の前に海垢離・水垢離・湯垢離などで心身のケガレを浄めることもあり、そんな中、後継者不足により一時は神楽師が減り、平成19（2007）年



中西 敏彦町会副会長



森 治行町会長



濱口 典彦さん

に一時休止することに。しかし町民の「伝統をつなげたい」という想いから子供頭（小さい御頭）を新たに製作し、小学生から高校生までの希望者が誰でも参加できるようにすることで平成22（2010）年から再度復活しました。

祭の当日は、朝9時頃にお宿（参集殿）にて舞を行った後、神楽師らが御頭を担ぎ、町の西側の辻を回り悪魔祓いをします。悪魔祓いとは御頭が剣を持ち、地区の人々の前で剣を何度も振り、厄を祓うというもの。厄払いを受ける人々は皆、腰をかめ頭を低く下げて祈ります。道中は所々で「五起こしの舞」や、地区の

四方に当たる場所では須佐之男命が八岐大蛇を退治するようすを表す「七起こしの舞」を披露。午後1時からは佐登奈加神社で御頭の舞いを奉納し、2時から地区の東側の辻々を回ります。そして夕刻、日が沈むと祭りの舞台は千引神社に移ります。神社の前の広場に積まれた高さ3メートルほどの青松葉の束が神楽師により点火され、大篝火の傍らで火祭りの神事が行われます。悪魔祓いで全ての災厄を引き受けた御頭が篝火の中に入ろうとするのを住民が引き留めるといったやりとりを数回繰り返し、最後はついに御頭を担いだ神楽師が炎の

中に飛び込みます。神楽師が火の粉を蹴り上げ、住民も竹棒でおき火をふりかけ、冬の夜空に火の粉が乱舞する。これがこの神事のクライマックスです。そして御頭は火の粉を浴びて悪魔を焼き払い、村人を守ります。現在は少子化により人員の確保が難しくなっていますが、かつての子供頭のメンバーが神楽師に入るなどよい循環も生まれている東大淀地区。伝統を守り続けています。

お問い合わせ

東大淀町民会館
TEL 0596-3713948



紙垂（しで）で覆われた御頭※



御頭の重さは約27キログラム※



佐登奈加神社



ふだんは静かな境内

古和浦山神祭

〔南伊勢町古和浦〕

お手製の宝物や祭文の掛け合いで祈りを捧げる



鳥居前の広場に祭場を設ける山神祭※ 提供：南伊勢町教育委員会

熊野灘のリアス海岸が続く湾状の奥に位置する南伊勢町古和浦は、漁業の町として発展してきました。かつては山から伐り出した雑木などを各地へ搬出し、漁業とともに重要な産業でした。古和浦の正月は7日の山神祭、10日の八幡祭、13日に日待ち・大漁祈願祭と行事が続きます。

山神祭は、船が停泊する港と街並みを望む山の中腹で行われます。八幡山または大木山と呼ばれる山の狭い坂道を5分ほど上がると、右手に鳥居の立つ平坦な広場があり、階段先の八幡神社に山の神が合祀されています。

「堰堤がでる以前は、もっと上の浅間さん近く

に祀られていました。祭りで準備する物はウツギの棚とお供物。魚はソマ（ソウダガツオ）とオコゼが必要です。注連縄に飾る宝物は手先が器用な漁師のお手製です」と古和浦地区の氏子総代長・上村光さん。棚はウツギの枝で高さ80センチメートル、幅30センチメートルに仕上げ、お供物にはトコロ（山芋）や伊勢エビ、懸の魚としてのソマと、秘密の魚としてオコゼを半紙に包みます。

注連縄へ飾る宝物は、漁業や農業、山仕事に関わる模型で全部で16種類。カツオやサバ、イワシ、タイ、サゴシ、碇に鋸や鉋平鋸に鎌などを二対ずつ用意して吊るします。

古和浦は22の町組から構成され、山神祭は輪番制の当番町が主体となつて、氏子総代が補佐をします。当番町から一之当と二之当、そしてカラス役を選び、この三人が行事の中心的役割を担います。



上村 光さん

「現在は1月7日の午前に行われていますが、かつてはその前日の6日午後7時より12時まで、皆が集まって酒盛りが行なわれ、7日に日が替わった午前0時に神事が始まりました」と上村さんが教えてくれます。10年ほど前に開始時間を変更しましたが、行事の内容はそのまま受け継がれています。

参列者の中から「もうそろそろカラスが鳴く頃だな」「鳴かんと夜が明けるぞ」などと声が出ると、「カー、カー」と山の中からカラス役の鳴き声が聞こえてきます。そこで太鼓が叩かれて、鳥居前広場を祭場に神事が始まります。お



祠の前で掛け合いを行う



八幡神社に同座されている



山神祭は町指定の文化財



道具や魚の模型が宝物



山の中腹から集落を望む

祓いを受け、宮司による祝詞奏上、参列者が玉串を供えた後に、一之当と二之当、氏子総代が提灯を手に、当番町からも数人が付き添い、祠前で掛け合いが始まります。

懐にオコゼをしのばせた一之当と二之当が村内泰平、五穀豊穰、大漁満足を祈願し、その後、一之当が「秘密のウオをみせましようか」といって懐のオコゼを少しのぞかせ、二之当が「もそつ」とねだり、一之当の「ならぬ」といった問答でオコゼを供えます。続いて、古辞といわれる祭文が述べられ、その祭文には、農作物を痛める猪や猿など地域へ入って

来ると害になって困るものが並び、また追い払うための呪文といわれる「スントーロク」という言葉で撃退します。掛け合いが終わると、参列者全員で初笑い。和やかな雰囲気です。

カラス役がいたり、注連縄に吊るす宝物や秘密の魚と称するオコゼ、そして神饌のトコロに願いの込められた祭文と、山神祭は古和浦特有の興味深い内容の連続。長い年月の間、土地に住む人々の信仰心により、絶えることなく培われています。

お問い合わせ

南伊勢町役場南島庁舎

TEL 0596-17710001

神代から根付く祭りの形と信仰心を未来へ繋ぐ

花の窟神社のお綱かけ神事

【熊野市有馬町】



大綱を祭りの参加者で七里御浜へと引っ張る ※ 撮影：高見 守

2月2日と10月2日に行われるお綱かけ神事(県指定無形民俗文化財)は、花の窟神社の春と秋の例大祭。『日本書紀』

の記述にある「花を以て祭る」を今に受け継ぎ、五穀豊穣を祈願します。花の窟はイザナミノミコトの墓所と伝わり、社殿はなく、45メートルの大岩がご神体。神の依代を岩に求める磐座信仰の代表格で「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産に登録されています。

奉納されます。「ご神体から大綱を渡して大勢で浜へと引っ張ります。参拝者であれば祭りにどなたでもご参加いただけます。大綱に触ればご神徳が得られると、毎年たくさんの方が訪れてくれます」と花の窟で宮司を務める山川均さん。この百十尋(170メートル)の大綱から垂れる三つの幡には、季節の花々と扇が結びつけられています。「祭りに欠かせないのが深紅の花。火の神カグツチを表しているともいわれ、秋にはケイトウ、春にはツバキを用意します。昔は鶏の頭のように大きなケイトウを揃えたとされていて、今でも花びらの立派なものを探しています。これまでのやり方を変えないでやっていくことが大事でしょうから」と山川宮司の言葉通り、昔から花をお供えに祭りが続けられ、古い和歌や文書にもその様子が見て取れます。



山川 均宮司

花と同様に大切なのが、7本の綱。稲藁で作られた綱は、ご祭神であるイザナミノミコトが産んだ、風・海・木・草・火・土・水と、それぞれ自然神七柱を表しています。

大綱作りには近在の熊野市有馬の氏子を中心となつて、地区ごとに6班に分かれ輪番制で準備が行われています。藁から整える作業で大人数が必要となり、藁の外皮を取り除いてきれいにする「藁選り」、機械で打って柔らかくする「藁打ち」、手作業で縄を編む「縄編み」のグループに分かれて作業を進めて準備します。藁に水を打って叩いて縄えや

すいようにしますが、一束叩くだけで手はしびれるほど。力仕事かつ細かな手作業も求められるため、人手不足になりがちです。「昔は農家で藁草履や注連縄なんかも作っていましたが、最近ではそういうこともなくなり、縄編みをできる人が少なく、藁自体触ったことがないという人もいて、年々危ぶまれているところもあります。それでも毎年、氏子さんや有馬地区以外の方も来てくれて、祭りを支えてくれています」と感謝を口にする山川宮司。数年前から地元の若い参加者もいたり、遠方からは泊まりがけで手伝いに来てくれる人もいます。

「昔から続くことを忠実に伝えていきたい」と、神事が無事に済むたびにホッと胸を撫で下ろす山川宮司。歴史は古いのですが社殿のない神社ゆえ、代々残されているものがほとんどなく、今伝わる内容をしっかりと執り行うことが使命だと感じています。



社務所内に設けた祭場



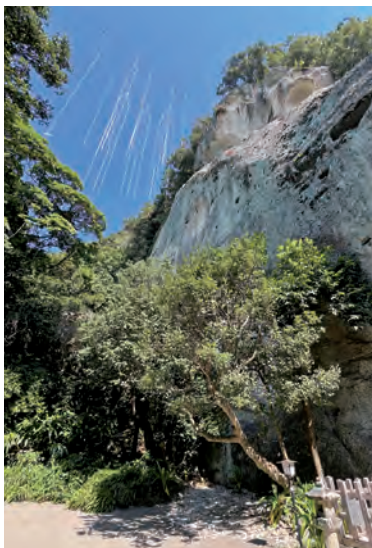
参道を進む祭り奉仕者 ※



大岩の上で綱をしる ※



地元小学生による巫女舞 ※



大岩がご神体の花の窟

お問い合わせ

花の窟神社

TEL 0597-89-2881